

「がん対策の理解」に関するアンケート

<https://www.jbct.jp/about/gantaisaku.html>

日本がん治療認定医機構 副理事長 吉野孝之

本機構の概要

- 設立：2006年に**日本癌治療学会、日本癌学会、日本臨床腫瘍学会、全国がん協**により設立。
- 目的：日常的がん治療水準の向上を目指し、その共通基盤となる臨床腫瘍学の知識、基本的技術に習熟し、医療倫理に基づいたがん治療を実践し、**我が国のがん対策を深く理解し貢献する優れた医師(がん治療認定医)**の養成と認定を行う。（2025年に太字を追加）
- がん治療認定医、2008年第1回認定、
がん治療認定医数（R7.4.1） **18,358人（うち歯科699人）**
- 資格：基盤学会の専門医もしくは認定医であること
（内科24%、外科42%、婦人科11%、泌尿器科9%、放射線科3%、耳鼻科3%、脳外科3%など）
- 審査：専門カリキュラムを実施し、**教育セミナーを受講しCBTを受験して合格となる。**

背景

2007年に施行されたがん対策基本法は、日本のがん医療政策の法的基盤である。2023年に策定された第4期がん対策推進基本計画は、「誰一人取り残さないがん対策」を理念とし、予防、医療、共生の三本柱と、それらを支える基盤整備（研究、人材育成、教育、登録、デジタル化）から構成される。臨床医は政策実装の最前線に位置し、その政策理解の程度は政策成果に影響を与える可能性がある。しかし、がん治療認定医における政策理解の実態を体系的に検証した調査は限られている。

方法

本調査は全国横断的アンケート調査である。対象は日本がん治療認定医機構に登録されているがん治療認定医および歯科口腔外科認定医である。Webアンケートは、事前に日本がん治療認定医機構の理事会で承認を得た。調査項目は、回答者属性、制度認知度、17施策の重要度および理解度（5段階評価）、教育機会の有無、自由記述で構成された。1問以上回答したがん治療認定医を解析対象とし、記述統計として度数および割合を算出した。

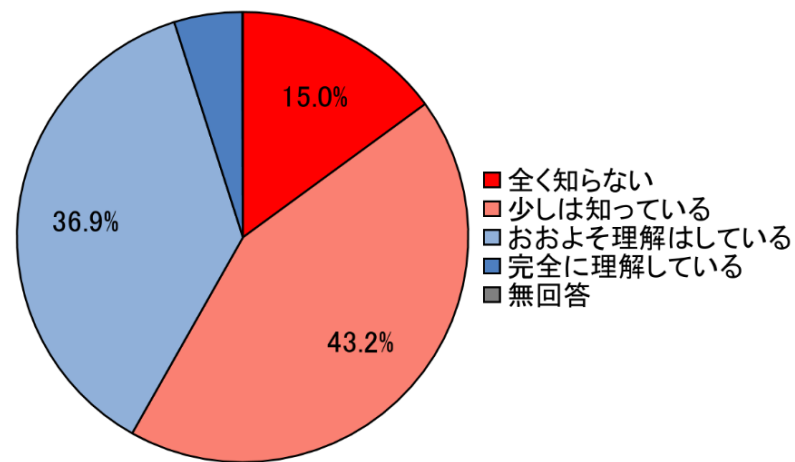
アンケート実施期間：2025年7月25日～2025年8月31日

アンケート有効回答数：2,425名

がん対策基本法

Q. がん対策基本法では、「国はがん対策推進協議会の意見を聞いてがん対策推進基本計画を作り、これに従い都道府県で都道府県がん対策推進計画を作成し、予防、医療の均てん化等の施策を実施する」という流れになっていることを知っていましたか？

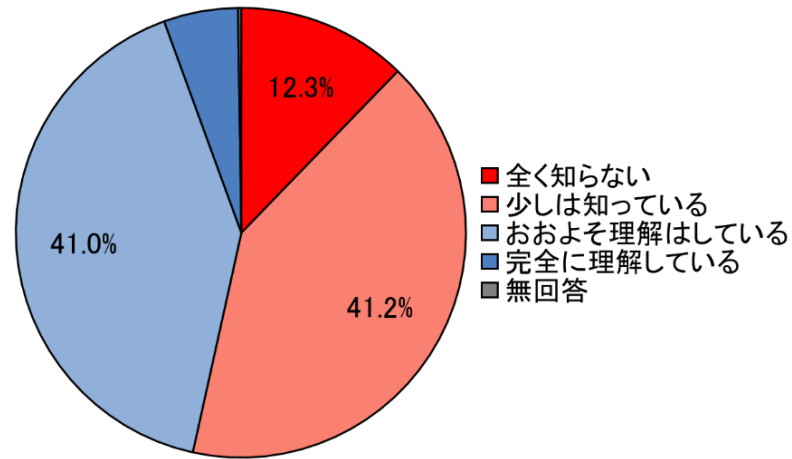
(1 : 全く知らない、 2 : 少しは知っている 3 : おおよそ理解はしている、 4 : 完全に理解している)



全く知らない	363 (15.0%)
少しは知っている	1047 (43.2%)
おおよそ理解はしている	896 (36.9%)
完全に理解している	118 (4.9%)
無回答	1 (0.0%)

医師の役割

Q. がん対策基本法において医師の役割は、「国及び地方公共団体が講ずるがん対策に協力し、がんの予防に寄与するよう努めるとともに、がん患者の置かれている状況を深く認識し、良質かつ適切ながん医療を行うよう努めなければならない。」とされていることを知っていましたか？
(1：全く知らない、2：少しは知っている3：おおよそ理解はしている、4：完全に理解している)

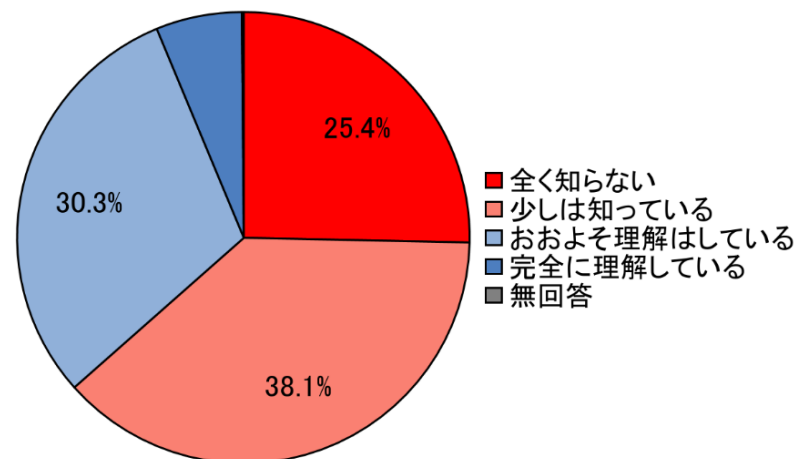


全く知らない	298 (12.3%)
少しは知っている	998 (41.2%)
おおよそ理解はしている	994 (41.0%)
完全に理解している	130 (5.4%)
無回答	5 (0.2%)

第4期がん対策推進基本計画の全体目標

Q. 第4期がん対策推進基本計画の全体目標が「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す。」であることを知っていましたか？

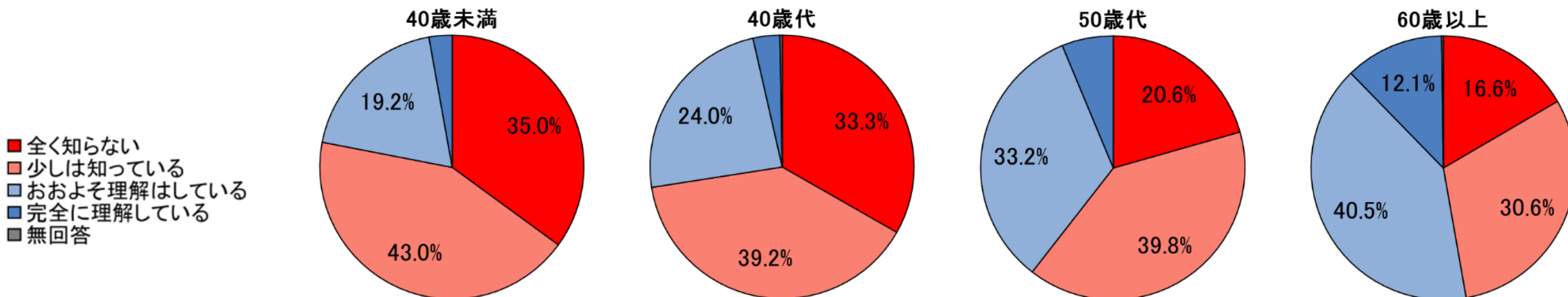
(1 : 全く知らない、 2 : 少しは知っている 3 : おおよそ理解はしている、 4 : 完全に理解している)



全く知らない	615 (25.4%)
少しは知っている	923 (38.1%)
おおよそ理解はしている	735 (30.3%)
完全に理解している	149 (6.1%)
無回答	3 (0.1%)

第4期がん対策推進基本計画の全体目標（年代別解析）

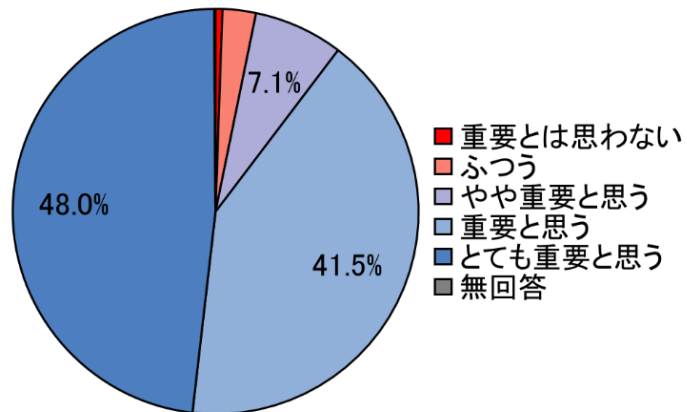
Q. 第4期がん対策推進基本計画の全体目標が「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す。」であることを知っていましたか？



全く知らない	75 (35.0%)	272 (33.3%)	187 (20.6%)	81 (16.6%)
少しは知っている	92 (43.0%)	321 (39.2%)	361 (39.8%)	149 (30.6%)
おおよそ理解はしている	41 (19.2%)	196 (24.0%)	301 (33.2%)	197 (40.5%)
完全に理解している	6 (2.8%)	27 (3.3%)	57 (6.3%)	59 (12.1%)
無回答	0 (0.0%)	2 (0.2%)	0 (0.0%)	1 (0.2%)

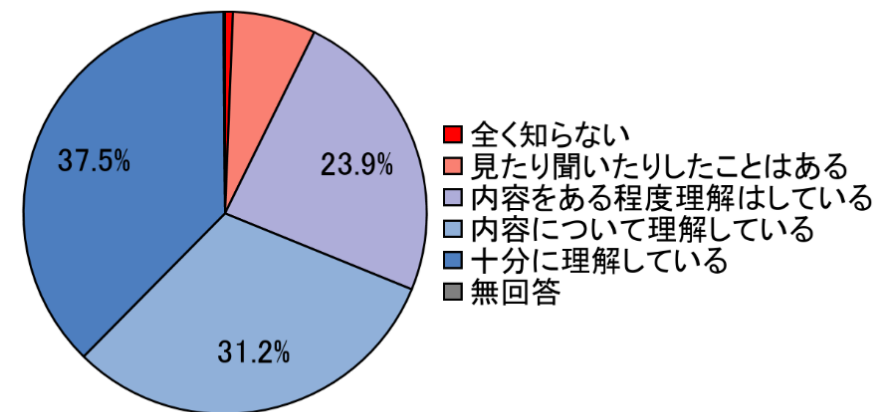
がんの一次予防（生活習慣、感染症）

■ 重要度



重要とは思わない	13 (0.5%)
ふつう	65 (2.7%)
やや重要と思う	173 (7.1%)
重要と思う	1006 (41.5%)
とても重要と思う	1165 (48.0%)
無回答	3 (0.1%)

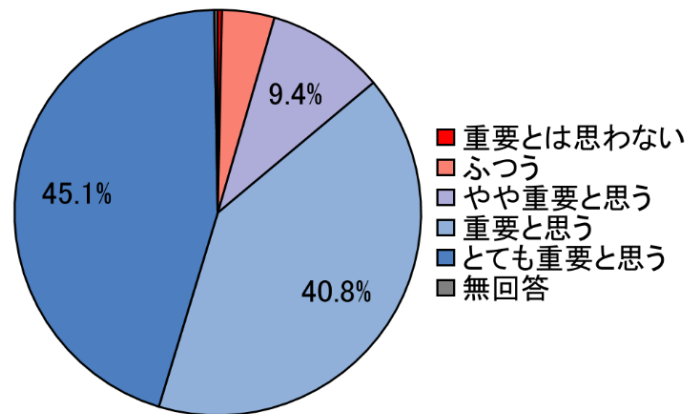
■ 理解度



全く知らない	15 (0.6%)
見たり聞いたりしたことはあるが、内容までは知らない	162 (6.7%)
内容をある程度理解はしているが、詳細までは知らない	579 (23.9%)
内容について理解しているが、臨床業務の中での意識は薄い	757 (31.2%)
十分に理解し、常に意識している	909 (37.5%)
無回答	3 (0.1%)

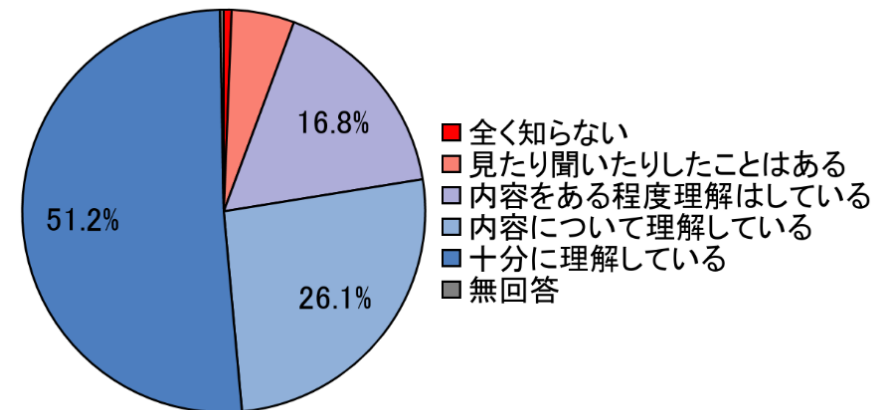
がんの二次予防（検診）

■ 重要度



重要とは思わない	8 (0.3%)
ふつう	101 (4.2%)
やや重要と思う	228 (9.4%)
重要と思う	989 (40.8%)
とても重要と思う	1093 (45.1%)
無回答	6 (0.2%)

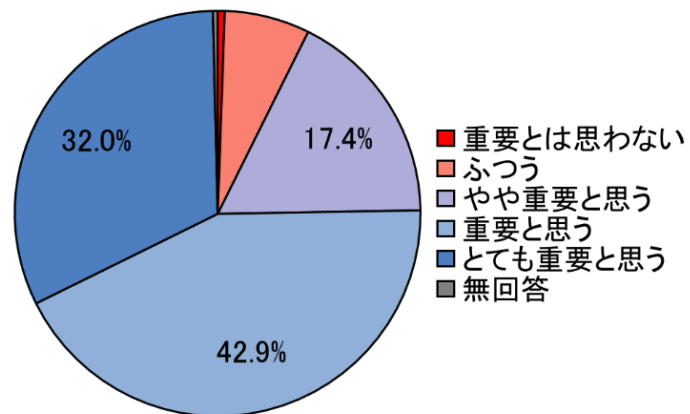
■ 理解度



全く知らない	16 (0.7%)
見たり聞いたりしたことはあるが、 内容までは知らない	122 (5.0%)
内容をある程度理解はしているが、 詳細までは知らない	407 (16.8%)
内容について理解しているが、 臨床業務の中での意識は薄い	632 (26.1%)
十分に理解し、常に意識している	1241 (51.2%)
無回答	7 (0.3%)

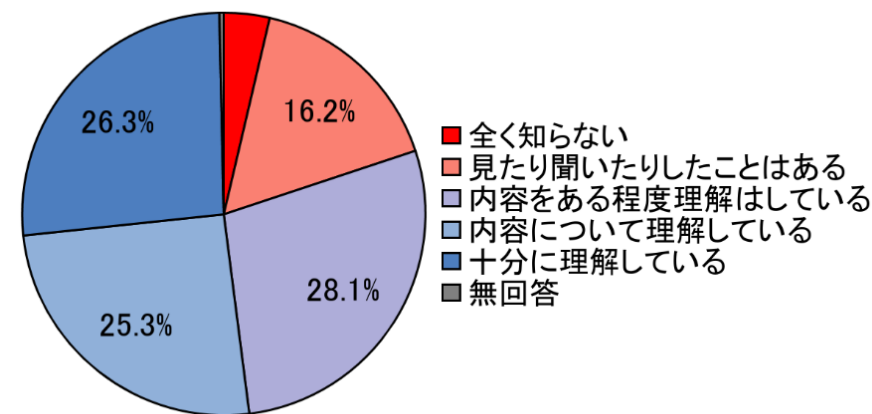
希少がん・難治性がん対策

■ 重要度



重要とは思わない	13 (0.5%)
ふつう	165 (6.8%)
やや重要と思う	422 (17.4%)
重要と思う	1041 (42.9%)
とても重要と思う	775 (32.0%)
無回答	9 (0.4%)

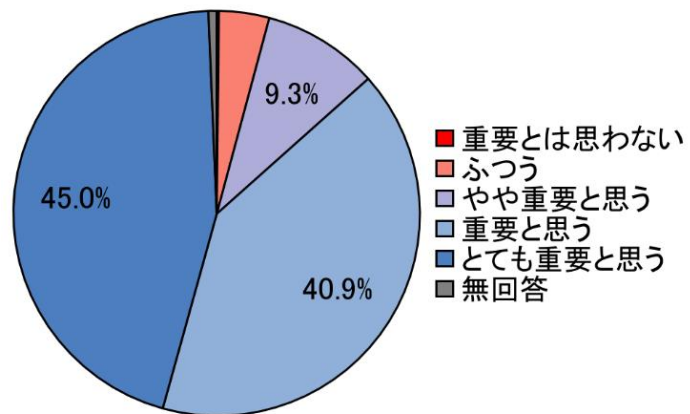
■ 理解度



全く知らない	89 (3.7%)
見たり聞いたりしたことはあるが、内容までは知らない	394 (16.2%)
内容をある程度理解はしているが、詳細までは知らない	681 (28.1%)
内容について理解しているが、臨床業務の中での意識は薄い	614 (25.3%)
十分に理解し、常に意識している	638 (26.3%)
無回答	9 (0.4%)

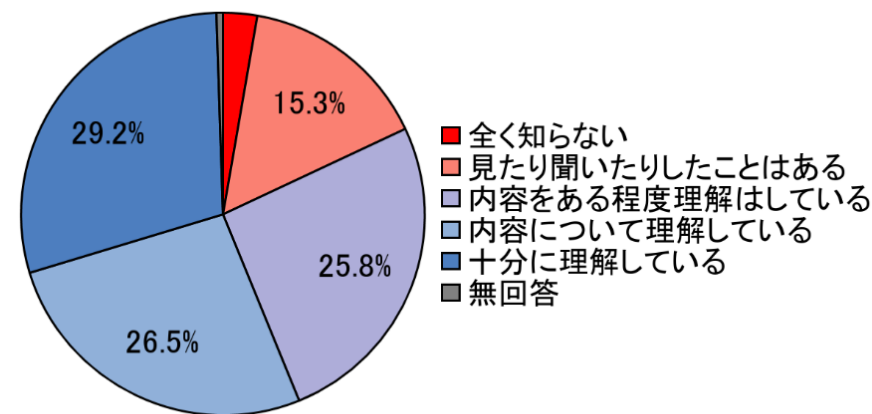
小児がん・AYA世代のがん対策（含む妊孕性温存療法）

■ 重要度



重要とは思わない	4 (0.2%)
ふつう	97 (4.0%)
やや重要と思う	225 (9.3%)
重要と思う	991 (40.9%)
とても重要と思う	1092 (45.0%)
無回答	16 (0.7%)

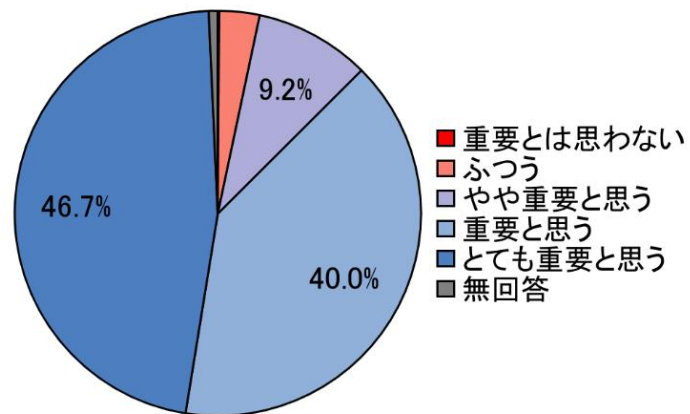
■ 理解度



全く知らない	66 (2.7%)
見たり聞いたりしたことはあるが、内容までは知らない	371 (15.3%)
内容をある程度理解はしているが、詳細までは知らない	626 (25.8%)
内容について理解しているが、臨床業務の中での意識は薄い	642 (26.5%)
十分に理解し、常に意識している	707 (29.2%)
無回答	13 (0.5%)

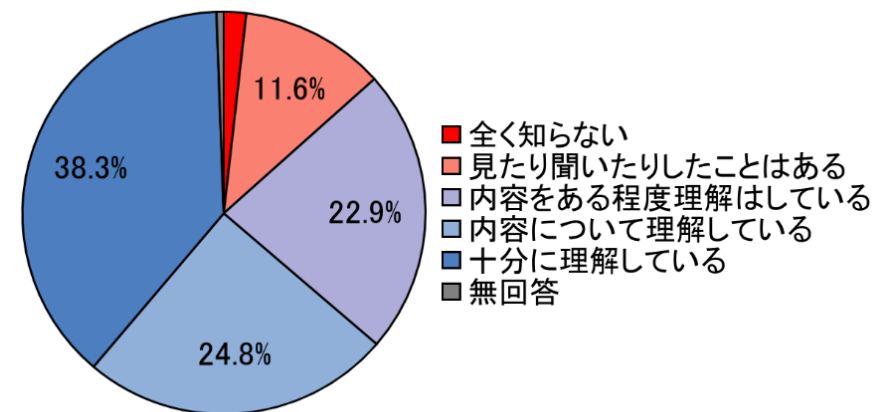
相談支援及び情報提供

■ 重要度



重要とは思わない	2 (0.1%)
ふつう	79 (3.3%)
やや重要と思う	222 (9.2%)
重要と思う	971 (40.0%)
とても重要と思う	1133 (46.7%)
無回答	18 (0.7%)

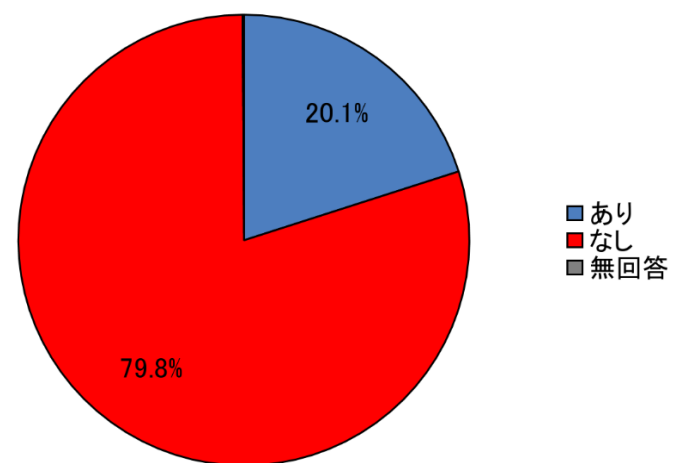
■ 理解度



全く知らない	44 (1.8%)
見たり聞いたりしたことはあるが、内容までは知らない	281 (11.6%)
内容をある程度理解はしているが、詳細までは知らない	556 (22.9%)
内容について理解しているが、臨床業務の中での意識は薄い	602 (24.8%)
十分に理解し、常に意識している	928 (38.3%)
無回答	14 (0.6%)

教育機会の有無

Q. これまで第4期がん対策推進基本計画に関して学ぶ機会がありましたか？
(1：あり、2：なし)

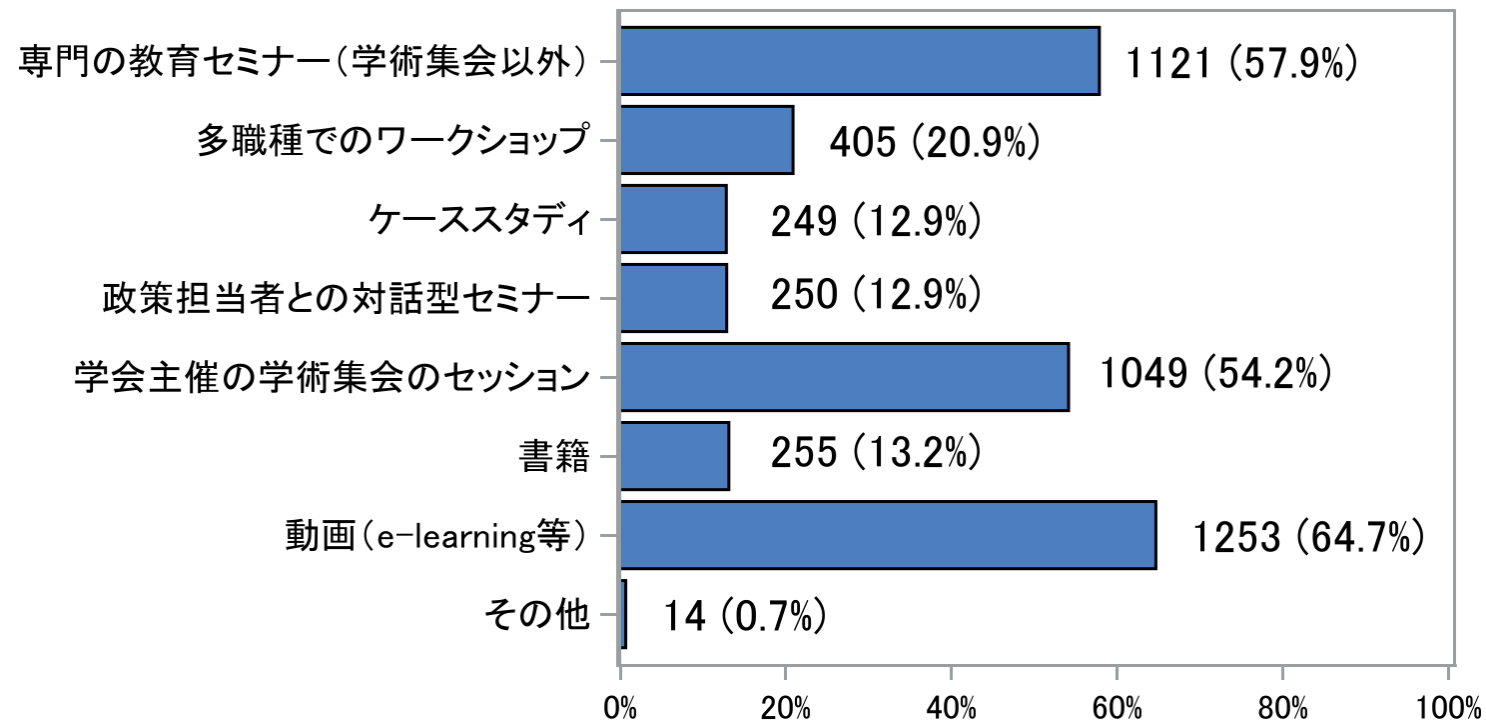


あり	487 (20.1%)
なし	1936 (79.8%)
無回答	2 (0.1%)

教育機会の希望

Q. 教育機会が「なし」の方は、どのような媒体・機会であれば理解が深まるとお考えですか？
(複数回答可)

- ① 専門の教育セミナー（学術集会以外）、② 多職種でのワークショップ、③ ケーススタディ、④ 政策担当者との対話型セミナー、⑤ 学会主催の学術集会のセッション、⑥ 書籍、⑦ 動画（e-learning等）、⑧ その他（自由記載： ）

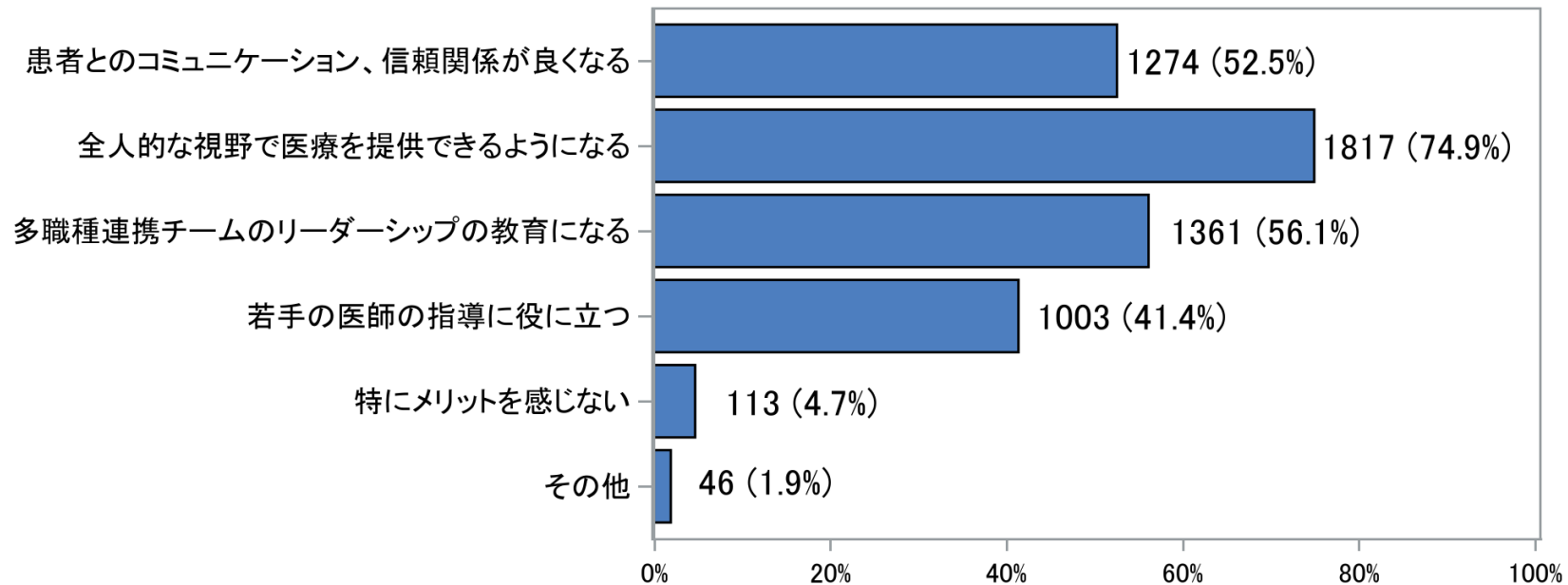


学ぶことの意義

Q. がん診療にかかわる医師が広く、国のがん対策を学ぶことにはどのような意義があると思いますか？（複数回答可）

- ① 患者とのコミュニケーション、信頼関係が良くなる。
- ② 全人的な視野で医療を提供できるようになる。
- ③ 多職種連携チームのリーダーシップの教育になる。
- ④ 若手の医師の指導に役に立つ
- ⑤ 特にメリットを感じない。

その他、考えられる意義があれば記載ください（自由記載）



必要な施策

Q. 臨床現場の医師が患者目線でがん対策を改善するために、どのような施策が必要と考えますか。

◆ 全体

- 予防・検診の推進 : HPVワクチン、禁煙、飲酒抑制、健診受診率向上、公的な啓発活動など、一次予防への強い期待
- 教育・知識更新 : 定期的なアップデート、ケーススタディ、ロールプレイ、学生時代からの教育カリキュラム整備
- 患者・家族の参画 : 患者目線の理解、患者会や交流会の強化、患者や家族の声の反映、ピアランスケア支援
- 社会的・制度的課題 : 診療報酬・医療費負担・制度設計（SDM加算、ACP導入）、地域格差是正、タスクシフト、医師の職場環境の改善

◆ 30歳代

- 予防・啓発や知識更新、患者視点の取り込みを重視

◆ 40代以上

- 診療体制の効率化、制度・社会レベルでのがん対策、働き方改革 を提言

がん対策の理解に関する取り組みのサマリー

「がん対策の理解」に関するアンケート実施

アンケート実施期間：2025年7月25日～2025年8月31日

「がん対策の理解」に関するアンケート結果および結果の要約および今後の対応策

アンケート有効回答数：2,425名

要約抜粋；制度的枠組みの認知度を見ると、がん対策基本法を「完全に理解している」と答えた割合は5%以下にとどまり、多くは「少し知っている」または「おおよそ理解はしている」に集中した。医師の役割についても同様の傾向であった。さらに、第4期基本計画の全体目標に関しては、「全く知らない」が約25%に達し、制度全般の認知度は不十分といえる。総じて、本調査は「がん対策の理解不足」「重要度と理解度の乖離」「世代別の課題意識の違い」を明示し、今後は教育機会の拡充と世代特性に応じた施策設計が不可欠であることを示した。

今後の対応策；テキスト・カリキュラム改訂検討会、教育委員会、理事会で承認された方針を下記に示す。

- 「がん対策」に関する新規項目の追加方針

がん対策基本法およびがん対策推進基本計画の内容を、研修カリキュラム総論の「ゼロ項」として新設する方針。

- 既存カリキュラムの改訂

既存の「がんの疫学・がん検診」項目から「がん対策基本法の概要」に関する記述を削除し、新設するゼロ項に内容を移管する。

- 対応策

この新体制で来年度のテキスト制作・セミナー開催・試験を実施する。